

隼人郷土誌

隼人町



昭和六十年三月

合併三十周年記念

隼人郷

土史



隼人町

町花 カンナ  
町木 山つばき



隼人町役場



町営体育館



歴史民俗資料館



隼人駅



濱崎直哉 町長



瀬戸口武彦 議長



宮田守恵 副議長



初午祭



町議会議員



議会風景



町民大会



町立保健センター



隼人町天降川地区共同利用施設



昭和59年5月21日 天皇陛下鹿児島神宮で「鈴かけ馬踊り」をご観覧



昭和32年 獅子尾丘から原部落を望む



昭和32年 新田山から木之房付近を望む

# 発刊のことば

隼人町長 濱崎直哉

隼人町合併三十周年を記念して、隼人郷土誌を発刊することは誠に意義深いことあります。

編さんを担当していただきました三ツ石友三郎氏の献身的御努力に対しまして深甚なる謝意を表するものであります。我が隼人町は悠久の史と景に恵まれた豊かなふるさとで、国指定の文化財隼人塚をはじめ、彦火火出見尊を祭る鹿児島神宮など多くの文化的遺産を内包し、北に霧峰霧島連山、南に秀麗桜島を望み、春は花、秋は紅葉のあかな国であります。

今回、合併三十周年を迎えるに当たり、うるわしき風土に恵まれた郷土の過去や変遷、それぞれの時代を懸命に生きた祖先の偉業を顕彰するため、隼人郷土誌の改訂を企画しました。

次代を担う青少年の方々にも是非御愛読をいただき、素晴らしい文化遺産を継承・発展し、豊かで活力にみちた郷土を創造していただきたいものであります。

この郷土誌は昭和四十六年五月につぐ本格的な郷土誌であり、前回の郷土誌を大きく改訂し、その後の研究・調査の成果なども追録し、なるべく平易に読みやすい編集に留意していただきました。

昭和八年発刊の日当山村史、昭和十年発刊の隼人郷土誌本、昭和四十六年発刊の隼人郷土誌につぐ記念出版であります。本町の文化推進の原動力として裨益することを願って、発刊の御挨拶といたします。

昭和六十年三月三十日

ま  
え  
が  
き

合併三〇周年記念事業の一環として、昨年隼人郷土誌改訂版発行の決定がなされました。

明治百年記念事業として、昭和四十六年に刊行された隼人郷土誌の在庫は皆無の状況で、再版の要望があつたという背景もありました。前の時点では農政史の大先達であった吉永吉夫委員、碩学で長老の種子田十郎委員の協力がありました。

今回は専ら時間との競争であり、まさに孤軍奮闘がありました。

文献や史料の正確を期す為に可能な限り、実測・史料採訪を再三繰返す毎日でした。僅か十数年のうちに貴重な文化財が散逸サンイフしていました。

本誌の編集・刊行にあたり、隼人町は多額の経費を支出していただきました。濱崎直哉町長、並びに町議会の勇断に満腔の敬意を表するものであります。

編集は原本により忠実であり、一般向きに平易化することに留意しました。文中の敬称はすべて省略してありますので、お許しをいただきたい。閲覧できる限りの図書、刊行物を参考・利用しました。衷心より感謝いたします。文責はすべて編集者にあります。

最後に短期間という困難な条件下、印刷業務を担当いただいた斯文堂株式会社に厚く御礼を申しあげます。

昭和六十年三月三十日

編集者 三ツ石 友三郎

# 目 次

## 次

発刊のことば	隼人町長 濱崎直哉	一九
まえがき	三ツ石友三郎	二二
編集者		
I、原始・古代		
第一章 原始社会		
1、日本民族の形成		一
日本史の原点		一
白き神々の座		一
旧石器時代		三
繩文文化		四
第二章 国家の発生と成長		
1、弥生文化の出現		六
古墳文化		七
2、大和国家の発展		九
統一国家への黎明		一一
高千穂の宮		一四
石体宮		一五
第三章 大和国家の確立		
1、仏法王法		一九
律令体制の浸透		一九
大隅国分寺		一九
大隅の国衙		二二
隼人の反乱		二七
隼人舞		四二
田の神舞		四四
翁舞		四六
隼人の挽歌		四八
隼人塚		五〇
神宮寺		六一
第四章 古代文化の成熟		
1、古代文化の繁栄		
弥勒寺		六三
租税制度		六六
3、八幡宮印の謎		七一
4、広大なる莊園		七四
5、混迷する神領		七九

6、神領禰寝院の変遷 ..... 八二

## II、中世

### 第一章 大隅の守護

1、正八幡宮と地頭職 ..... 八九

2、異国降伏の祈願 ..... 一〇二

### 第二章 封建政治の展開

1、南北朝の動乱 ..... 一〇三

2、大隅の動乱 ..... 一〇四

3、戦火の正八幡 ..... 一〇七

4、南北朝の動乱 ..... 一一二

5、古代権力の没落 ..... 一六

### 第三章 新秩序への胎動

1、三州統一 ..... 一二五

2、守護大名より戦国大名へ ..... 一二六

3、戦国大名の成長 ..... 一二九

4、中世の城郭 ..... 一三一

## III、封建後期

### 第一章 藩政の推移

1、行政 ..... 一三五

2、寺社の統廃合 ..... 一四一  
3、湯の里のはじまり ..... 一四四  
4、名僧の教化 ..... 一六四

## IV、近代

### 第一章 行政

1、常備隊 ..... 一八一  
2、戸長制度 ..... 一八一

3、区制 ..... 一八一

4、郡治制度 ..... 一八二

5、戸長・小隊長 ..... 一八二

6、町村制施行 ..... 一八二

7、歴代町村長 ..... 一八二

8、村・町会議員 ..... 一八三

### 第二章 人口動態

1、概況 ..... 一八九

### 第三章 教育・文化

1、学問のすすめ ..... 一九〇

2、人物 ..... 一九九

1、郵政事業の発達	一一〇
2、交通・運輸	一一〇
<b>第五章 風俗</b>	
1、農民の生活	一一〇
2、宗教	一一一
3、住居	一一三
4、娯楽	一一四
5、家庭年中行事	一一九
<b>V、産業経済編</b>	
<b>第一章 産業の概況</b>	
1、地勢概況	一四〇
2、地形と標高	一四〇
3、島嶼小島の面積	一四〇
4、山岳台地の標高	一四一
5、農耕地の形成区分	一四一
6、河川と集水面積	一四一
7、沿岸の状況	一四二
8、耕地（水田・畑地）	一四三
9、水系別水田面積概況	一四三
<b>VI、参考資料編</b>	
a、古碑文	三五一
b、古文書	三六三
c、隼人町小字一覧	五八〇
d、海外引揚者	五八三
e、大字別公民会番号表	五九一
年表	五九三
10、水源と用水組合と受益面積	二四三
11、農地の造成	二四三
12、田の神	二四五
13、土地利用面積の推移	二四五
14、農業慣行	二四九
15、作物栽培の慣行	一四九
16、産業人口の動向	一五〇
17、土地制度	一六〇
18、肥料	三二六
19、病虫害と農薬	三三三
20、小作農の発生	三三八